

特集

令和2年度施政方針

キラリと輝き続けるための第一歩
暮らしに身近な施策のさらなる充実

3月2日(月)、令和2年豊山町議会第1回定例会において、服部正樹町長が令和2年度の施政方針演説を行いました。今月号の特集では、その全文をお知らせします。

はじめに

令和2年第1回豊山町議会定例会の開会にあたり、関係諸議案の審議に先立ちまして、新年度、町政に臨む私の所信と主要な施策の方針につきまして申し述べ、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと思っております。

平成28年11月20日の町長就任から3年3か月余りが経過し、4年間の任期最後の年度を迎えることとなります。町長就任以降、私は鈴木前町長の後を引継ぎ、第4次総合計画の着実な実施に向け、邁進してまいりました。

「町民の皆さん誰もが住みやすい、住み続けられる町」を実現するため、小中学校へのエアコンの設置、ICT教育の推進、新給食センターの建設、介護支援ボランティアポイント制度新設や、とよやまタウンバスのルート見直し、公共施設への防犯カメラの設置など、教育や福祉、生活環境の充実に取り組んでまいりました。

第4次総合計画期間の10年を振り返りますと、民間定期航空路線全面撤退の危機に直面

した県営名古屋空港は、順調に路線を拡大し、今年年間利用者が90万人を超えるまでになりました。空港周辺地域は、「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」に指定され、国産初のジェット旅客機スペースジェット最終組み立て工場が完成し、MRJミュージアム、あいち航空ミュージアムと、2つの大型見学施設もオープンし、本町は、航空機関連施設の集積する「ヒコキのまち」として輝き、にぎわいを実現しています。

令和2年度から第5次総合計画期間がスタートします。これまでのまちづくりで実現したにぎわいの維持・向上を目指すとともに、町民の皆様方、お一人お一人が健康で安心して日々の生活を送られ、生涯を通じて生きがいを持っていきいきと過ごすことができ、この実現に向け、福祉、教育、防災など、暮らしに身近な施策のさらなる充実を図ってまいります。

令和2年度当初予算案の概要と施策の特徴について

それでは、令和2年度当初予算案の概要と施策の特徴について、申し上げます。

令和2年度は、新しいまちづくりの方向性と将来像を定める第5次総合計画と都市計画マスタープランのスタートの年であります。

第5次総合計画に掲げるまちの将来像「一人ひとりが輝く 暮らし豊かなアーバンビレッジ」の実現を目指す、まちの将来を見据えた予算の編成としております。

一般会計の総額は、77億4400万円、対前年度比4億7900万円、6.6%の増となっております。これは、当

初予算としては8年連続で前年度を上回るもので、国民健康保険をはじめとした特別会計の総額は、34億7580万7千円で、対前年度比2億1525万3千円、6.6%の増となっております。

一般会計の歳入の根幹をなす町税は、全体としては対前年度比1億6845万1千円、3.8%の減となっております。

個人町民税につきましては、給与所得の増加により対前年度比1679万8千円の増、法人町民税につきましては税制改正により、令和元年10月1日以降に開始する事業年度から法人税割の税率が9.7%から6.0%に引き下げられる